

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470101336	事業の開始年月日	平成18年1月1日
		指定年月日	平成18年1月1日
法人名	有限会社 福寿の里		
事業所名	福寿の里グループホーム		
所在地	(〒 230 - 0003) 神奈川県横浜市鶴見区尻手2-4-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 : 食事を楽しんで頂けるよう季節の食材を多く使うようにして、手作りで提供している。
2 ; 利用者の誕生日には赤飯を炊いて、他利用者・職員全員でお祝いしている。 また、記念写真を撮っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年3月8日	評価機関 評価決定日	令和4年3月25

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇地域における活発な福祉サービスの活動 福寿の里グループホームは、現在1ユニット8人の利用者があるが、玄関の表示は、「介護センター福寿の里」として、グループホームのほかに、訪問介護をはじめデイサービス(定員25人)、ショートステイ、ケアプランの作成など地域の福祉活動の拠点活動が行われている。介護センターは、大型バン車両、移送車両を保有し、福祉サービスの活動が活発に感じられる。 ◇安心と信頼に向けた職員の結束 准看護師をはじめとして管理者など親族職員が中心となって、利用者や家族の安心と信頼に向けた結束があり、定期的な会議を行うだけでなく、情報の共有、連絡の迅速化、連携の素早い取り組みを容易にしている。
【事業所が工夫している点】 ◇楽しくおいしい食事の提供 ・食事の準備や片付けは、利用者と職員が一緒に行えるよう心がけている。食事は、業者の食材配送のほかに、職員が近くのスーパーに買い出しを行い、手作りで調理している。季節の食材を多く使い、楽しむようにしている。また、嫌いな食材がある利用者には、細かく刻み、また、とろ味を使うなど食べやすく、おいしくなるように工夫している。

<

	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	福寿の里グループホーム
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し入職時に管理者が内容共有出来るよう説明している。また、利用者を自分の親・祖父母のように考え安心して生活できるような全職員で取り組んでいる。	・事業所理念は「安心できる日常生活」「支えあい共存できる生活」でリビングに掲示している。 ・理念は職員間で共有し、利用者同士の関係を把握し、それぞれが出来ることをしてみんなで支え合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止のため、地域との交流は出来ていない。	・自治会に加入し地域の防災訓練に参加し、祭では神輿が事業所前で休憩をしたり、1階のデイサービスで演奏会も行われていたが、コロナ禍の現在は自粛している。 ・回覧板や掲示板で地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献出来るよう努力しているが実践するまでには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、書面にて報告をし、意見などは書いて頂き、返送して頂くようにしている。	・自治会役員、地域包括支援センター職員、家族を委員として2か月に1回開催していたが、コロナ禍の現在は書面の報告としている。家族からコロナ禍で散歩もできないので、運動など体を使うことをさせてほしいとの意見があった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム内の問題に対しては、必要に応じて地域包括支援センターに相談している。	・高齢・障害支援課からコロナの蔓延時に消毒液・マスク・手袋配布などで連絡をとりあった。 ・市の対面研修は自粛しているが、動画配信での研修に参加した。グループホーム連絡会に加入し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束のない生活支援が出来るよう定期的に身体拘束マニュアルを基に施設内で研修している。出入口には施錠せず、音で分かるよう鈴をつけている。	・管理者、准看護師、職員からなる「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回開催している。身体拘束マニュアルを基に年に2回、施設内研修を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・出入口は施錠はせず鈴を付け、出入りが分かるようにしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない生活支援が出来るよう管理者が指導している。職員間でも注意しあうよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が交流会などに参加し情報交換している。情報共有出来るよう内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム内で面談し契約書の読み合わせをしている。分からない事は、その都度説明し理解・納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望がないか聞いている。2ヶ月ごとに利用者の近況報告を郵送している。グループホーム入り口に意見箱を設置し意見や要望があれば検討し運営に反映できるようにしている。	・2か月ごと利用者近況報告を家族に送付している。その中に意向や要望を聞く欄を設けている。また、面会時や電話連絡の際にも聞いている。出された意見は検討し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内で意見・提案を聞き、その都度検討し業務改善している。	・管理者は日頃から気楽に話し合える雰囲気作りを心掛けて何でも言える環境を作っている。意見、提案があった場合はその都度検討し、業務の改善をしている。 ・誕生会など行事に関する職員意見はほぼ全面的に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に職員の要望を聞き、希望に添えるよう努めている。	・昇給がある年は職員の日々の努力や実績を把握し、昇給に反映し向上心を持って働けるよう努めている。また、頑張りを認める退職金制度が最近始まった。現在、育児休業を取得中の職員がいる。休暇などを取り易い環境にある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に担当者を決め支援統一出来るよう指導している。必要に応じて准看護師がケアの実践を行い指導している。	・入職時に担当者を決めOJT(教育訓練)にて利用者との接し方、介護方法、業務について指導をしている。 ・准看護師による口腔ケア、清拭の仕方、軽微なケガの手当など実践を含めた研修を開催し、職員は安心して働ける環境にある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が交流会などに参加し情報交換している。情報共有出来るよう内部研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に向け2泊3日の体験利用をして頂き、利用者の要望聞き安心して生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に家族の要望を聞き、希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験利用時に出来る事・出来ない事見極め、利用者や家族の要望に沿った計画を作成し実践できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム理念を念頭に置き、利用者と職員が共有できる時間を多く設け、良い関係が築けるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染防止のため面会の制限をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止のため面会の制限をしており、外出や家族以外の面会はなかった。	・利用者から昔の思い出話などを聞いている。希望があれば手紙や電話連絡、あるいは面会などが出来ることを話して関係継続の支援をしている。近隣住民だった利用者は馴染みの公園や散歩に行っていたが現在は自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活支援を通して利用者同士がお互いに支えあえるような環境作りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の連絡は殆どない。できる限り家庭訪問や電話での対応をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から利用者の意見や要望の把握に努めている。意思表示出来ない利用者は、表情やしぐさから意向をくみ取り、職員全員で検討し対応をしている。	・利用者との関わりを多く持ち、意向や要望を把握している。一対一になる入浴時など、ゆったりした時間に思いを聞くことが出来る。 ・意思疎通が難しい利用者は、表情や仕草をもとに意向を推測し、情報を共有し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族からの情報を基に、これまでの生活やサービス利用を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察を行い出来る事・出来ない事を見極め職員全員が情報共有し利用者の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成している。短期3ヶ月・長期6ヶ月・状況変化時に見直しを行っている。必要に応じて主治医に相談し意見を聞いている。	・本人をはじめ家族には電話連絡を行い、管理者、准看護師、担当者によるケアカンファレンスを行っている。 ・介護計画は、短期3か月、長期6か月そして状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項のみを記録に残し職員全員で情報共有する事により介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向や要望・その時々ニーズに合わせた支援が出来るよう職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが協働出来るまでには至っていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い利用者や家族の意向に沿えるよう支援している。往診医（内科・歯科）の情報を提供し希望に応じて往診依頼している。それ以外は家族に付き添いを依頼し受診して頂いている。緊急時には職員が対応をしている。	・准看護師が常勤しているほかに、利用者や家族の希望や意向に基づき、月二回の訪問診療（内科）を受けている。 ・通院する眼科などには、原則家族が同伴し、緊急時には、職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師が職員からの情報を基に利用者の健康管理をしている。必要に応じて家族や主治医と連絡を取り往診依頼や受診依頼をしている。緊急時には病院まで付き添う事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院出来る医療機関との業務委託契約は出来ているが、殆ど入院する事なく経過しており医療機関との協働が出来るまでには至っていない。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアマニュアルを基に内部研修を行っている。利用者や家族の意向を尊重し出来る事・出来ない事を説明し主治医・家族と話し合い方針を決め職員全員で情報共有し終末期に向けたケアを実施している。	・入所契約時に、重度化した場合や看取りの方針を説明し、また、家族の意向を確認している。 ・これまでに看取りの実績がある。状況に応じて、家族、准看護師、医師、ケアマネージャーで情報を共有するとともに、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に内部研修を行っているが定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には自治会防犯部の協力を得られるよう連絡を取り合っている。	・年2回の避難訓練では、連絡訓練、初期消火、夜間を想定した訓練を行っている。 ・災害時には、地元自治会の協力を得られる体制づくりに努めている。 ・災害備蓄品リストは、2階事務室に保管し、分散して食料、飲料、日用品を保管している。	災害備蓄品リストは、水、食料、日用品が賞味期限を明らかにして作成されています。緊急時に分かりやすくするため、保管した場所を加えて作成するように期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々への声かけを工夫しながら対応をしている。利用者への声かけや対応で気になる事は職員間で注意しあったり、管理者が注意・指導をしている。	・利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者への声かけや職員の対応で気になる点は、職員間で情報を共有し、対応している。 ・個人情報に関する記録は、事務室書架に保管し、施錠・管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員が共有できる時間を多くもち、日々の会話の中から利用者の希望を聞き出したり、自己決定出来るような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲水食事時・入浴介助時以外は利用者の生活リズムを崩さないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿えるよう家族と話し合い支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や果物などを出来るだけ提供している。利用者の嫌いな物は細かく刻むなどして調理し提供している。一緒に食事準備や後片付けするよう声かけしているが拒否される事が多い。	・食事を楽しんでもらうため、手作りで季節の食材を多く使うようにしている。 ・食事の準備や片付けは、利用者と職員が一緒に行えるよう声かけをしている。 ・利用者の誕生日には、赤飯で、利用者と職員が一緒になり、写真を撮り祝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い利用者個々にあった食事量・飲水量を提供し体重のコントロールをしている。刻み食・ミキサー食・とろみ食にも対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診医の指導により利用者個々にあった口腔ケアが出来るよう支援している。また、ガーゼやスポンジブラシを使用する事もある。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ対応の利用者には排泄チェック表を使用している。その他の利用者には定期的にトイレ誘導・介助をしている。また、飲水食事前と就寝時にはトイレに行くよう声かけしている。日中はリハビリパンツを使用するようにしている。	・排泄チェック表に基づき、おむつの使用を減らし、また、定期的にトイレでの排泄や排泄の自立を図っている。 ・食事前や就寝前に、トイレ使用の声かけを行ない、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を多く摂れるよう工夫しながら対応している。また、運動支援を行っている。必要に応じて主治医に相談し緩下剤の処方をして頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人で入浴出来る利用者がないため、利用者個々にあった支援は出来ていない。入浴介助は週2回（夏場3回）実施している。入浴日以外は清拭や足浴で対応している。	・入浴介助は、週2回（夏は3回）、午前に職員が行っている。入浴日以外は、清拭や足浴を行っている。 ・利用者が職員とゆっくり話をする機会となり、個々の対応を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを崩さないよう心がけている。昼夜逆転しないよう時間の調整支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬を把握できるよう説明書とお薬手帳は、いつでも見れるよう準備している。薬の変更時には個人記録に記載し情報共有している。また、服薬確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調を見ながら、出来る事は時間がかかっても本人にして頂き達成感を味わえるようにしている。また、屋上での日光浴・外気浴などで気分転換出来るよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止のため、病院受診以外は外出支援していない。屋上での日光浴や外気浴で気分転換出来るよう支援している。	・コロナ禍のため、現在は散歩や近所の外出は取りやめているが、それまでは、公園散歩を行ってきた。 ・気分転換を図るため、施設屋上での日光浴や外気浴ができるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つ事により離設や置忘れる事があるため、入所時に家族へ依頼し現金は持たせないようにしている。必要時には家族と連絡を取り立替払いにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話し、本人に変わるようにしている。手紙などの依頼は殆どない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花を飾り、雨の日以外1～2時間ほど毎日換気し、温度・湿度の調整をしている。また、加湿空気清浄機を3台配置している。離床出来ない利用者の部屋にも加湿空気清浄機を設置している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつのフロアに居室がまとめて配置されている。居室、リビング、廊下がゆったり設計され、室温や湿度を一定に保っている。 ・フロアには、季節の花を飾り、利用者の手芸品を置き、居心地のよい空間を作っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の居場所は確保出来ている。飲水食事時・入浴介助時以外は自由に過ごせるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとカーテン以外は利用者が使い慣れた布団や家具などを持ち込んで頂き出来るだけ環境を変えないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・約6畳の居室には、ベッド、ナースコール、照明、カーテン、冷暖房管理が行われ、一人で過ごせる居場所を作っている。 ・使い慣れた寝具、小机、家族写真や手芸品を持ち込み、過ごしやすい居室になるよう努めている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全体がバリアフリーになっている。ふらつきのある利用者には転倒しないよう手の届く範囲で見守りしている。		

目標達成計画

事業所名 福寿の里グループホーム

作成日 令和4年3月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	備蓄品を分散しておいてあり、実際に使用する時どこにあるか場所がわからない恐れがある。	備蓄品を一カ所にまとめる事ができるか検討する。	一カ所に備蓄品をまとめられないようなら備蓄リストに置き場を記載する。	2カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。